

カルバー 46cm 望遠鏡関連資料と山本天文台に保管されていた写真乾板の状況

前原裕之(花山天文台)

1. カルバー 46cm 望遠鏡と関連資料の搬入

カルバー 46cm 望遠鏡は 1929 年に輸入され、最初は花山天文台に設置された(図 1)。しかし、山本一清博士の京大退職後は花山天文台から山本天文台に移設され、観測に使用されていた。その後、さらに山本天文台から月光天文台に移設され、最終的に富田学園高校天文台(岐阜市)で使用されていた。1980 年頃からは解体された形で、岐阜県小川村の小川天文台で保管されていた。

長らく小川天文台を運営されてきた坂井氏から、望遠鏡本体と関連資料が京都大学に寄贈されることになり、2011 年の 6 月 13 日に花山天文台の太陽館への搬入を行なった(図 2)。

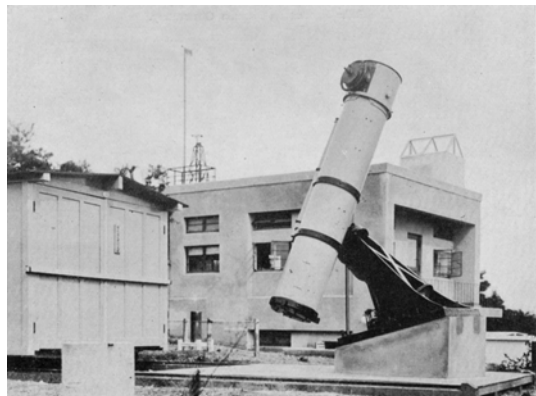


図 1:花山天文台に設置されていた頃のカルバー 46cm 望遠鏡



図 2:6 月の搬入作業の様子

寄贈・搬入された主な物品・資料を図 3～8 に示す。



図 3:望遠鏡の鏡筒



図 4:架台部分と鏡筒の一部

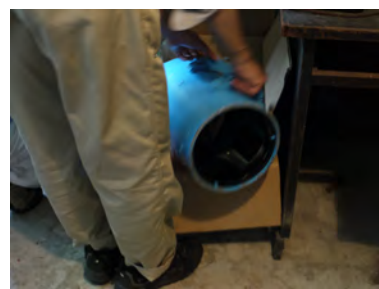


図 5:13cm シユミットカメラ



図 6:星座投影機



図 7:書籍など



図 8:46cm 主鏡

現在のところ太陽館の地下室で、搬入時のまま保管している。地下で室内の湿度が高いため、除湿機 2 台を設置している。今後の保管/公開などの方法などについてはまだ未定である。

2. 山本天文台保管の写真乾板

2010 年 10 月に行なった山本天文台保管資料の予備調査において、山本天文台の第二観測室 1 階に 1920～1930 年代に花山天文台で撮影された約 2000 枚の太陽のスペクトロヘリオグラフによる太陽の単色全面像

(CaHK 線)の写真乾板が保管されていることが判明した。

また、山本天文台に保管されている資料が京大へ寄贈されることとなり、その調査が2011年4月と5月に行なわれ、その結果第一観測室の1階にも花山天文台で撮影された写真乾板が保管されていることが判明した(図9、10)。



図9:第一観測室1階の乾板の保管状況(1)



図10:第一観測室1階の乾板の保管状況(2)

山本天文台の資料の京大への寄贈に伴い、これらの写真乾板を6月28～30日に搬出し、第一観測室保管分は花山天文台の太陽館に、第二観測室保管分は北部教育研究棟に搬入した。第一観測室保管分の乾板には、彗星や小惑星、星雲星団、変光星の写真の他(図11～13)、ザートリウス望遠鏡と対物プリズムによって撮影された1934年のヘルクレス座新星(DQ Her)の分光写真(図14)も含まれており、非常に貴重な資料であるといえる。

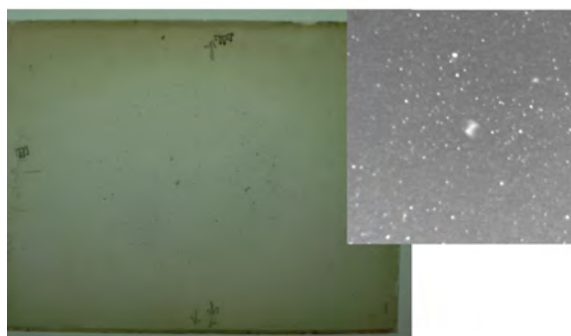


図11:M27の乾板

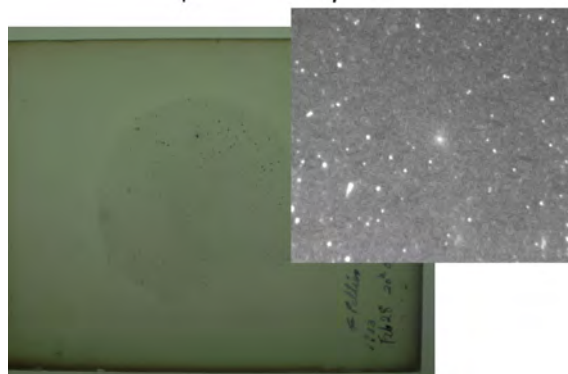


図12:C/1933D1, Peltierの乾板



図13:ζ Aur (食変光星)の乾板



図14:1934年ヘルクレス座新星(DQ Her)のスペクトル乾板

現在のところ、太陽観測の乾板については観測データの入力およびスキャナによる画像データの電子化作業が始まっている。また、彗星や変光星、スペクトルの乾板については、後の電子化に向けて数量の調査やおおまかな分類を行なっている段階である。